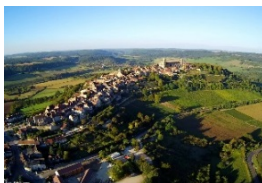


# ブルゴーニュ・ フランシュ＝コンテの 8つの土地と遺産

ユネスコ世界文化遺産リスト  
に登録されている



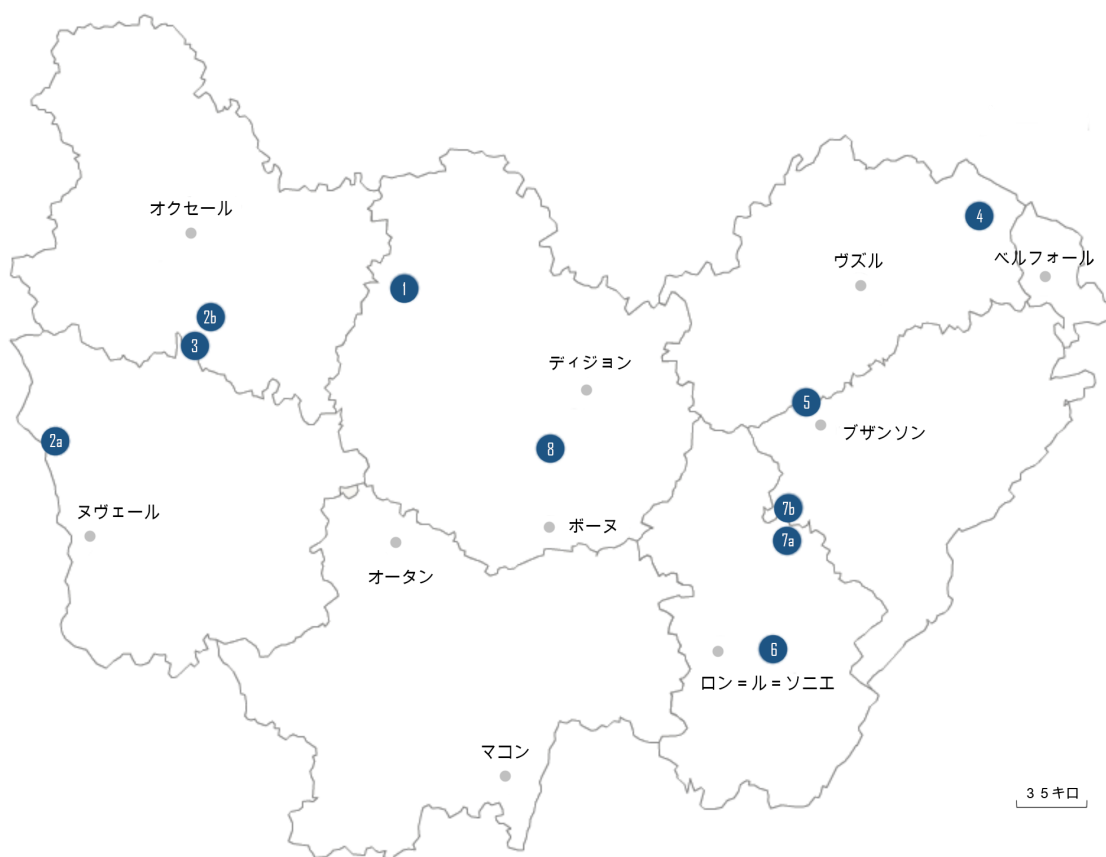


# 土地と遺産 地域圏別

## ブルゴーニュ・ フランシュ・コンテ

なぜこのネットワーキングが必要なのでしょうか？.....	4
フォントネーのシトー会修道院.....	5
シャリテ・シュー・ロワール教会&アスキャンのサンジャック・ル・マジュール教会.....	6
ヴェズレーの大聖堂と丘.....	7
ノートルダム・デュ・オー・礼拝堂（ロンシャンの礼拝堂）（ル・コルビュジエ）.....	8
ラ・シタデル（城塞）ブザンソンのヴォーバンの防衛施設群.....	9
シャラン湖とクレルヴォー湖 アルプス山脈周辺の先史時代の抗上住居群.....	10
サラン＝レ＝バンの大製塩所.....	10
アルク＝エ＝スナンの王立製塩所.....	12
ブルゴーニュのブドウ畑のクリマ.....	13

# ブルゴーニュ = フランシュ = コンテ



- ① フォントネーのシトー会修道院
- ②a シャリテ・シュー・ロワール教会
- ②b アスキャンのサン=ジャック=ル=マジュール教会  
サン・ジャック  
コンポステルの礼拝路
- ③ ヴェズレーの大聖堂と丘
- ④ ノートルダム・デュ・オー・礼拝堂  
(ロンシャンの礼拝堂) (ル・コルビュジエ)
- ⑤ Besançonのシタテルと城壁都市 (ヴォーバン要塞群)
- ⑥ シャラン湖とクレルヴォー湖  
アルプス山脈周辺の先史時代の抗上住居群
- ⑦a サラン=レ=パンの大製塩所
- ⑦b アル=ケ=スナンの王立製塩所
- ⑧ ブルゴーニュの  
ぶどう畑のクリマ

[patrimoine.bourgognefranche-comte.com/unesco/](http://patrimoine.bourgognefranche-comte.com/unesco/)

# なぜこのネットワーキングが必要なのでしょう？

ここ2年間にわたり、ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテのユネスコ世界遺産の代表者たちは、街の取るべきリフレクションとアクションについての意見交換を行いながらその進展を推進すべく、定期的に集結してました。各区間が主に観光に関わる地域共同プロジェクトの実践を進めるにつれ、それぞれの地域圏の特性を活かしたシナジー効果が生まれ、全体的な1つの地域圏の創立とその志を表明することができる様になりました。その勢いに乗り、2018に地域全体は、その具体的且つ目に見える活動をコミットすべくブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ観光委員会の集団遺産 Patrimoine du Comité du Tourisme Bourgogne-Franche-Comté に加盟し、地域スキームに統合されたポジショニングにて観光及びレクリエーション開発を行っています。その成果により、新たな1つのアクションとして、前年度九月からはパリのメトロのポスターキャンペーンが実現されました。2018年末の、パートナーシップ憲章の著名が新たなステップとなりました。それは、世界遺産の価値観の合意のもと、真の意味での地域圏の同盟、連帯、分担、評価を象徴するステップとなりました。目指すは、ダイナミック、創造的、積極的なネットワークを創設するのみです。

## 地域圏の比例なき魅力

ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテは、オクシタニー地域に並び、ユネスコ世界遺産登録遺跡数を最も誇る地域圏です。この比類ない登録遺跡数密度が、この地域圏の文化的多様性と豊かさを証明しています。ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏は、地域共同プロジェクトの原動力、共有ベースとして地域分化の源の役割を果たしています。

## 共有価値

世界遺産登録されている・・・

保護、知識、そして伝承こそが世界遺産協定の支柱です。全人類の世界遺産の1つの要素として細心の注意のもと保管されるべき文化的、自然的世界遺産のリストはユネスコによって作られたものだと言うことを忘れてはなりません。それぞれの登録所在地はその土地のエスプリに敬意を払い、地元住民達による遺産保持活動も励ましています。

そしてブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテのネットワーキングも・・・

世界遺産に登録されているブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテの8つの行政区間は、歴史的、また建築的分野において非常に多様な地域文化を誇っています。ここでは、素晴らしい景色と、古代遺跡と、様々な建築物（インダストリアル、宗教的、軍事的）について説明しています。

## 土地の観光的ポテンシャルの促進と評価

世界遺産に登録されている敷地の評判と知名度は、それらを支えるプロモーション活動と評価を作り出して行くための強い基盤となっています。

## 我々の志

### 分かち合いと交換

集合的助け合いとリフレクションの場として存在し続けること。遺産は各自それぞれの信憑性と世界規模のユニバーサルな付加価値を秘めています。それぞれの遺産は「永続的」なエスプリによって運営され、運営プランの適用を通して国家奉公と関わっています。遺産保持のグループメンバーはそれぞれの所在地を結び合うパートナーシップ憲章に著名することにより、共同経験を土台としたコラボレーションと、良質な実践の共有、熟練的な知識を構築していく取り組みを育み、遂行しています。



# フォントネーのシトー会修道院



1118年サン・ベルナルにより創立されたフォントネーの修道院は、フランスで最も古いシトー会修道院の1つです。12世紀の数々の神秘派建造物にとって、ロマネスク建築は素晴らしい均一性を付与しています。9世紀の歴史を超えた今でも、我々の目には色あせない輝きを放っています。

サン・ベルナルによる精密な計画に従い、訪客達は連続的に、教会、宿舎、僧院、参事会会場、写字室、暖房部屋、鍛冶室の順に内見して行きます。

修道院内の複数の部屋の見学の理想的な延長線上として方来客を迎えるのは、大フランス庭園と造庭でしょう。それらの庭園では、多様な植物、樹齢100年の樹々や鱒池などの噴水が見学できます。フォントネー修道院の庭園は2004年、文化省により「最も顕著なる庭園」に抜擢されました。


庭園の向こうには、1200ヘクタール以上の広大なフォントネー谷間が森や川と共に修道院を取り囲み、季節ごとに変わる自然の景色、パノラマを楽しませてくれます。

フォントネー修道院は、フランスの建築物の中で初めてユネスコ世界遺産に登録された私有財産の1つです。その格付けは1981年にフォントネーの素晴らしい価値を明らかにしました。


現在、毎年、約10万人の方来客が25カ国以上の場所からこの修道院に訪れています。

## インフォメーション

[www.abbayedefontenay.com](http://www.abbayedefontenay.com)

 [abbayedefontenay](https://www.facebook.com/abbayedefontenay)

 [@AbbayeFontenay](https://twitter.com/AbbayeFontenay)

 [@abbayedefontenay](https://www.instagram.com/abbayedefontenay)

## お問い合わせ

エリック・ヴィエヤール

[eric.viellard@abbayedefontenay.com](mailto:eric.viellard@abbayedefontenay.com)

+33-3 80 92 56 69

事務所

[info@abbayedefontenay.com](mailto:info@abbayedefontenay.com)

+33-3 80 92 15 00

# シャリテ・シュー・ロワール教会 & アスキャンのサンジャック・ル・マジュール教会



11世紀半ば、クリュニー修道院はド・ラ・シャリテ小修道院を創立しました。教会は1107年に、ローマ教皇パスカリス二世により奉獻。


教皇パスカリス二世この建造物はクリュニー会拡大に向け根本的な役割を果たしました。12世紀、ノートルダム教会は長さ120メートル、サント・クロワ鐘楼は高さ27メートルありました。


400以上に及ぶ附属建築物が、ラ・シャリテ教会を「クリュニーの長女」と呼ばれる由来となった。残念ながら、1559年の大火災によって、教会の大部分は破壊されました。1695年、コルベール層が身廊の柱間と袖廊の支柱を再建させました。ノートルダム教会はその優雅に刻まれた装飾によってこそ有名になりました。

柱、周歩廊の柱頭、祭壇の動物寓意譚（どうぶつぐういたん）と高位アーケードはクリュニーを代表する芸術です。1998年、ノートルダム教会は、フランスのサンジャック・ドゥ・コンポステル（サンティアゴ・デ・コンポステーラ）巡礼路の主要工程として、ユネスコ世界遺産に登録されました。伝統は巡礼者達が「良き父のシャリテ」に立ち寄る風習を守るようにと、街にその名前を付けました。ヨーロッパにおけるサントル・キュルチュレル・ドゥ・ランコントル（出会いのカルチャーセンター）ネットワークに属するラ・シャリテ・シュー・ロワールは、良質な文化プログラムと共に、小修道院と提携しています。

## インフォメーション

[www.lacharitesurloire-tourisme.com](http://www.lacharitesurloire-tourisme.com)

 La. Charite. sur. Loire. Tourisme

 lacharitesurloiretourisme

## お問い合わせ

エステル・グリヴォ

[estellegrivot@lacharitesurloire-tourisme.com](mailto:estellegrivot@lacharitesurloire-tourisme.com)

シャルレーン・ジョランドン

[charlene@lacharitesurloire-tourisme.com](mailto:charlene@lacharitesurloire-tourisme.com)

+33-3 86 70 15 06



## ヴェズレーの大聖堂と丘



©Studio Morize, pour le CDY

モルヴァンの入り口にある、キュール川がその麓を流れるヴェズレーの丘は、昔はサソリ山は、(モン＝スコルピオン Mont-Scorpion)、嘗て「永遠の丘」と呼ばれ、9世紀、ブルゴーニュ叙事詩の創説の舞台となりました。丘の頂上に位置する寺院は遥か遠くまでこだまを残している存在です。11世紀初頭、キリスト教巡礼者達は挙ってヴェズレーに集まってきました。ヴェズレーはベネディクト会の灯台的存在となり、マグダラのマリアの聖遺物を守ろうと偽わるベネディクト会修道僧達は、巡礼者の群れや十字軍をローマ、エルサレム、サン＝ジャック＝ドゥ＝コンポステルの方角に導きました。ヴェズレーの大聖堂と丘は1979年に登録された世界遺産の中で、フランスで初めて選ばれた世界遺産の1つとされています。その後1998年にサン＝ジャック＝ドゥ＝コンポステル巡礼路の主要工程として世界遺産登録されています。ヴェズレーの街は、歴史的、精神世界的、芸術的スポットです。人々にとって曲線的な巡礼の街としてのシンボルマークでもありました。商業の集結する場所でもありました。街の城壁の修復作業は今日、街にとって最大の課題となっています。ヴェズレーは毎年、その神聖性に導かれて各地から訪問してくる10万人の観光客を受け入れています。修道院内の教会見学は、12世紀の彫刻芸術を巡る最高のプログラムと言えるでしょう。ヴェズレーの建築物の保存状態はとても良く、役所とヴェズレーに隣接する17つの町は、グラン・シットレーベルに立候補しました。

19世紀にウージェーヌ・ヴィオレ＝ル＝デュックによって行われた画期的な修復作業により、ヴェズレーは芸術家、作家たちの集う場所となりました。この遺産は、多様な分野において人類の創造的才能を表現する最高傑作として非常に豊かな文化的支持を集めています。


## インフォメーション

[www.vezelaytourisme.com](http://www.vezelaytourisme.com)

[www.vezelay.fr](http://www.vezelay.fr)

 OTvams

 OTVezelay

 v.a.m.s.tourisme

## お問い合わせ

ローラン・エケ

副市長

[lorant.hecquet@vezelay.fr](mailto:lorant.hecquet@vezelay.fr)

+33-6 81 11 12 77

# ノートルダム・デュ・オー・礼拝堂 (ロンシャンの礼拝堂) (ル・コルビュジエ)




ノートルダム・デュ・オー礼拝堂は、巡礼者の家と司祭者の家と平和のピラミッドと並び、ロンシャン近代建築の名所となっています。20世紀最大のモダニズム建築家ル・コルビュジエの4つの建築物と16つの建物は、2016年7月にユネスコ世界遺産リストに登録されました。1953年に創設、1955年に就任されたノートルダム・デュ・オー礼拝堂は反対者からの波紋を呼び、彼らはロンシャンの礼拝堂をモスクやコンクリート製基地と同等だと称した。崇拝者たちは反対に、建築史上初の、革命的な大傑作が建設されたことを悟った。ル・コルビュジエは光を建設の素材として扱っています：内側の三つの小礼拝堂「光の井戸」と南方の壁面「光の壁」は人々の視線を空へと導き、瞑想に誘っています。「光の壁」は複数のステンドグラスによって構成されています：コンクリート製のジョイントの中に祀られた白いガラス板を、ル・コルビュジエは変則的な奥行きを駆使しながら配列しています。ル・コルビュジエは、この白いガラスを時にペンキで色付けしています。

礼拝堂内の家具の大半は、ル・コルビュジエのデザインによって作られ、色彩されたものです：ベンチ、祭壇、説教台、エナメルコーティングされた2つの記念碑、聖体安置塔、巨大燭台など。礼拝堂の建築と家具はモデュロールという、ル・コルビュジエによって発明された計測器によって規制され、人類と建築物の調和を取っています。この建造物は、毎年、世界中から集まる7万人に近い観光客を受け入れ、20世紀の宗教芸術のリニューアルのシンボルマークとされています。展覧会、コンサート、クラシック音楽フェスティバル、子供達に向けた各種イベント（ワークワークショップ、クイズゲームなど）などが年間を通してこのロンシャンを象徴する施設にて催されています。

## インフォメーション

[www.collinenotredameduhaut.com](http://www.collinenotredameduhaut.com)

 LeCorbusierRonchamp

 @CNDH\_Ronchamp

## お問い合わせ

ジェニファー・カールマニャー

[communication@collinenotredameduhaut.com](mailto:communication@collinenotredameduhaut.com)

+33-3 84 20 73 27



# ラ・シタデル（城塞）

## ブザンソンのヴォーバンの防衛施設群



©ダヴィッド・ルフラン

ブザンソンとその城塞の歴史は、その建設者である技術将校、17世紀ルイ14世のフランスの建設技術者、建築家、都市計画家の中で最も有名な要塞建設の名手：ヴォーバンと密接に繋がっています。2008年ユネスコ世界遺産リストに登録されたブザンソンの城塞は、街の地理的条件に巧妙に適合され、今日、模範的軍事建築とされています。要塞の最も重要な部分であるラ・シタデル（城塞）は、フランスで随一の美しさを誇っています。100メートル以上の背斜に建てられた城塞からは、古代の都とそれらを取り囲む自然の壮観なパノラマ景色が一望できます。12ヘクタールに渡って広がる、ラ・シタデル城塞は城塞の中ではユイークな宝石と呼ばれ、多様な側面から人々を驚かせています。

文化的歴史的観光スポットであるラ・シタデル城塞には、「フランス認定美術館」が3つあります。フランシュ＝コンテ美術館、レジスタンスと追放記念館、そして、動物スペースを設ける国立自然博物館は、比例のない生物多様性を映し出しています。年間を通して開催される多種多様なイベントやアクティビティによってブザンソンの要塞は、フランス東中央部で最も文化的な観光名所となっています。コンテ地方の都の城塞建設アイデンティティを特徴付けた、城塞建設の名手ヴォーバンは、シタデル以外にも18つの建築物を県内で手がけています。ドゥー川の畝りにブザンソンを建設することを決めたヴォーバンは、町とシタデル砦の下部を守るために、まず最初の砦塔を川に建てました。また、グリフォン砦を第二のシタデルに変身させ、守備体制の強化を図りました。名高いquai Vauban（ヴォーバンの棧橋）の建設となりました。今日では、徒歩で、川辺から、または自転車でも探索が可能な、唯一無二の遺産となりました。ブザンソンとその城塞は訪問者たちを季節ごとに、美術館の豊かな芸術作品の美しさと情熱的な歴史の旅へ案内し続けて行くことでしょう。


## インフォメーション

[www.citadelle.com](http://www.citadelle.com)

[www.besancon.fr](http://www.besancon.fr)

 CitadelleDeBesanconmairiedebesancon

 @CitadelBesancon @villedebesancon

 citadelledebesancon

## お問い合わせ

マリー＝ピエール・パパジアン

マーケティング・広報マネージャー+33-381878337

[marie-pierre.papazian@citadelle.besancon.fr](mailto:marie-pierre.papazian@citadelle.besancon.fr)

マリー＝ロール・バッシ

考古学&世界遺産 部長

[marie-laure.bassi@besancon.fr](mailto:marie-laure.bassi@besancon.fr) +33-381878125

# シャラン湖とクレルヴォー湖 アルプス山脈周辺の先史時代の抗上住居群




2011年6月27日以来、アルプス山脈周辺の先史時代の抗上住居群はユネスコ世界遺産リスト登録物件とされています。この物件は多国籍であり、シリーズ化物件、セリエル (sériel) とされています。この物件は、スイス、オーストリア、フランス、ドイツ、イタリア、スロヴェニアの6カ国、1000件の有名な資産のうち111件の資産によって構成されています。これらの物件は、紀元前5000年から前500年までと言う先史時代以前におけるアルプス周辺地域の湖近郊や湿原における高床式住居、湖上住居の代表とされています。湖上住居は、「目に見えない文化遺産」であり、

考古学的発掘によってのみその遺跡の根底を発見することができます。ユネスコ世界遺産登録物件になるには、物件が目に見える必要はありません。高床式住居は湖上住居として初めての文化遺産です。これらの遺跡は特別な保存条件によって発掘されました。今日、水中に埋もれながらも、多くの遺物は、酸素の無い水にまみれた環境の中、非常に良い保存状態で保管されています。これらの保存環境は、木、食品の残骸、布などの有機物質の保存に適応していました。

そのお陰で、私たちは5000年前のアルプス山脈周辺湖の住居環境についての貴重な情報を得ることができました。クレルヴォー＝レ＝ラックの考古学スペースは、ジュラ周辺の湖についての40年間の研究と共に、棚屋（高床住居の一種）の再築を可能にしました。

## インフォメーション

[bit.ly/sites-palafittes](http://bit.ly/sites-palafittes)

 [juramusees.officiel](https://www.facebook.com/juramusees.officiel)

## お問い合わせ

ジュリエット・プレ

+33-7 76 96 35 02

[expo@clairvaux-les-lacs.com](mailto:expo@clairvaux-les-lacs.com)

オード・ルロワ＝デュロスト

[aleroy@jura.fr](mailto:aleroy@jura.fr)



## サラン＝レ＝バンの大製塩所



2009年ユネスコ世界遺産に登録されたサラン＝レ＝バン大製塩所製塩所はこれまで1200年に渡る伝統的製塩法を証明してきました。（人工蒸発装置による製塩システム）ヨーロッパで唯一の、このフランスで最古の小都市と言うべき中世の産業遺跡は今日も尚、1000年前の製塩技術の歴史跡を残す、比例のない建築的、技術的要素として保存されています。


8世紀から今日まで、この大製塩所は天然の塩を採掘し続けてきました。18世紀に塩水井戸を保持する為に建設された地下トンネルは、まるで塩のカテドラルのように、長さ165メートルに渡るアーチ型トンネルを形成しています。そのトンネルは、ブルゴーニュ公によって建てられた、2ヘクタールに及ぶ城塞に囲まれた工業小都市の一部でしかありません。その広大な地下空間の中心には、19世紀に開発された振り子型汲み上げ機構が設置され、巨大な水車を動力とするポンプは今日でも機能しています。地下で汲まれた塩水には1リットル当たり330グラムの塩が含まれており（死海の水より塩の濃度が高い）、その塩水は地上の建物へと送られ、水分を蒸発させ、「白い黄金」とされる塩を生み出していました。フランスで最後に使用された塩鍋は、グランド・サリンヌ（大製塩所）で保管されています。鍋周辺が50度を超える暑さになる、過酷な採塩作業であった古代の製塩技術が大鍋が裏付けています。

大製塩所は中世最大規模の工場であり、サラン＝レ＝バンの繁栄を促しました。フランシュ・コンテの収益の半分を生み出す小都市は、15世紀に2番目に大きな街でした。19世紀初頭まで、大製塩所は、紛れもなくフランシュ・コンテで最も重要な製塩所でありました。

近代化と海水採取との競争が進むにつれ、1962年に大製塩所は製塩作業を停止しました。今日の製塩所は、ジュラ地方で最も観光客数を誇る世界遺産として、毎年6万5千人の観光客を受け入れています。

## インフォメーション

[www.salinesdesalins.com](http://www.salinesdesalins.com)

 サランスの大製塩所

 grandesalinesalins

## お問い合わせ

ペリーヌ・ルフェーヴル

[communication@salinesdesalins.com](mailto:communication@salinesdesalins.com)

+33-3 84 73 10 92



# アルク＝エ＝スナンの王立製塩所




1982年に世界遺産に登録されたこのユニークな建造物、アルク＝エ＝スナン王立製塩所はルイ15世の要望によって建設され、建築家クロード・ニコラ・ルドゥーの最高傑作とされています。

1775年から1779年にかけて建設されたこの製塩所は、象徴的かつ実用的に考慮された11つの建物で形成されており、1895年の操業停止以降、幾度となく取り壊しを免れてきました。シエクル・ドウ・リュミエール（光の時代）のエンブレム的な建造物である王立製塩所は様々なイメージが秘められています。まず第一には、製塩所は、労働者のほぼ全員の住宅を兼ねた工場でした。劇場としての側面もあり、舞台の壁は「ベルヌ」と「製塩所長宅」で形成されていました。建築物は、洗練された凸凹の効いた壁面、柱、入口壁面、円形、マンサード屋根等で造形され、太陽光が映えるようにその舞台装置の全ては考えられていました。王立製塩所の建築様式とその後の経過は世界唯一のユニークさを誇り、私たちのルーツの鏡として現在も時を刻んでいます。

王立製塩所は現在、毎年12万人の訪問客を迎い入れる、公立文化コーペレーション施設として、年に4回の常設展、ライブラリーショップ、三ツ星ホテル、議会センターを設けて運営されています。並行して王立製塩所は豊かなカルチャープログラムを提供しています：常設展、庭園フェスティバル、ジョルディ・サヴァルの芸術的邸宅、ル・コンセール・デ・ナシオン、各種イベントやショー等。

## インフォメーション

[www.salineroyale.com](http://www.salineroyale.com)

 SalineroyaleArcetenans

 salineroyale

## お問い合わせ

イザベル・サレ

文化と世界遺産会長 +33-3 81 54 45 48

[isabellesalle@salineroyale.com](mailto:isabellesalle@salineroyale.com)

ジュスティヌ・モンリシャル

広報マネージャー +33-381544543

[justinemontrichard@salineroyale.com](mailto:justinemontrichard@salineroyale.com)

# ブルゴーニュのブドウ畑のクリマ




©オレリアン・イバネズ

ブルゴーニュのぶどう畑のクリマは「土着の人々と自然環境の密接な歴史を体現している、人類と自然の融合により生み出された芸術作品」であり、文化的景観として2015年に世界遺産の1つとして登録されました。ブルゴーニュにおける「クリマ」とは、フランス語における「クリマ（気候）」とはまた別の意味合いを持つことばです。ブルゴーニュでは、「クリマ」とは気候ではなく、明確に限定されたぶどう畑の小さな栽培区画を指しておりそれぞれのクリマが異なるテロワール、つまり土壌や細かい気象条件、丘の傾斜度合いや日照量の違いを所有しています。ワインの味は、クリマごとにユニークな個性を持ち、格付けされ、モンラッシェ、ロマネ・コンチ、シャンベルタン、レ・カイユ、レ・ザムルー、クロ・デ・ムーシュ等、それぞれが命名され、世界遺産には、ボヌの南、ディジョンからマランジュに渡って存在する1200以上ものクリマが存在します。ブルゴーニュのクリマの概念は、世界中のワインの産地のテロワールのモデルともなっています。ぶどう生産者と畑の所有者達は、中世時代から、何世紀もの年月をかけて、テロワールと栽培技術のノウハウを磨き、昇華させてきたのです。


このぶどう栽培の文化は、2000年の月日を経てユニークに体系化、そして多様化していきました。ぶどう畑の区画の境界を表す石垣や、かボットと呼ばれるこの地方独自の石造小屋、生産者の住居や市街地の景観だけでなく、ディジョンやボヌの街も建造物もその一部です。僧侶、ヴァロワ＝ブルゴーニュ公、卸売商やワイン製造者達が築き上げ守り続けてきたクリマは、この歴史的建造物が彼らの軌跡として証明しています。それらはこの地方の比類なき景観を生み出しました。現在、ラ・ミッション・クリマは比類なき文化遺産の価値を高め、次世代に確実に引き継ぐ為の活動を行なっています。ラ・メゾン・デ・クリマはその参考資料館とされています。クリマに関するカルチャープログラムも、年間を通じて提供されており、六月に開催される「モワ・デ・クリマ（クリマ月間）」にて閉幕します。

## インフォメーション

[www.climats-bourgogne.com](http://www.climats-bourgogne.com)

 ブルゴーニュワイン畑のクリマ・アソシエーション

 Climats\_Bourgogne@ClimatsUNESCO

 ユネスコのクリマ

## お問い合わせ

ベルトラン・ゴヴリ、アソシエーション会長

[direction@climat-bourgogne.com](mailto:direction@climat-bourgogne.com)

+33-6 08 11 34 95

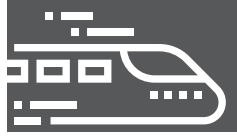
デルフィーヌ・マルティネズ、広報マネージャー

[communication@climats-bourgogne.com](mailto:communication@climats-bourgogne.com)

+33-6 31 42 13 50



# ブルゴーニュ＝フランシュ ＝コンテの8つのユネスコ 世界遺産



さあ、体験してください！  
世界遺産

パリからTGVで二時間

現地で、それぞれの遺産と遺産を結  
ぶ距離は一時間とみてください。



**1** フォントネイのシトー会修道院

**2a** シャリテ・シュール・ロワール教会

**2b** アスキャンのサン＝ジャック＝  
ル＝マジュール教会  
サン・ジャック  
コンポステルの礼拝路

**3** ヴェズレーの大聖堂と丘

**4** ロンシャンのノートルダム・デュ・オーチャ  
ペル (ル・コルビュジェ)

**5** ブザンソンのシタデルと城壁都市 (ヴォーバン  
要塞群)

**6** アルプス山脈周辺  
のシャラン湖とクレルヴォー  
の先史時代抗上住居跡群

**7a** サラン＝レ＝バンの大製塩所

**7b** アル＝ケ＝スナンの王立製塩所

**8** ブルゴーニュの  
ぶどう畑のクリマ

[patrimoine.bourgognefranche-comte.com/unesco/](http://patrimoine.bourgognefranche-comte.com/unesco/)